平成２８年度北海道中山間ふるさと・水と土保全対策事業スケジュール

時　期	４月	５月	６月	７月	８月	９月	１０月	１１月	１２月	１月	２月	３月
委員会 の開催			第１回 6/28						第２回 12/8			第３回
委員による 意見交換会		鶴居地区 (別海地区)	鶴居地区 6/23 里平地区	別海地区 7/25 7/14				11/11	岩見沢市 北村豊正地区	七飯地区	2/28 湧別地区	
指導員 関連事業	Web版 里づくり （毎月）	5/26	第1回幹事会 (札幌) 道東ﾌﾞﾛｯｸ (帯広) 6/16～17	情報誌13号 7/21	道北ﾌﾞﾛｯｸ (南富良野) 8/1～2 8/24～25	地域づくり 研修会(札幌) 第1回指導員会 第２回幹事会 9/29 道央ﾌﾞﾛｯｸ (喜茂別) 8/23～9/3 のうち２日間	現地研修 (旭川) 10/6～7	道南ﾌﾞﾛｯｸ (~~江差~~八雲) 11/10～11		第３回 幹事会 (札幌) 1/25 AM 第２回 指導員会 (札幌) 1/25 PM	全国研修 (東京) 2/15～16 情報誌14号	
その他			全国担当者 会議 6/13									

■鶴居村鶴居地区

採択年度	Ｈ２５年度	活動団体名	鶴居村スローライフ実行委員会

Ｈ２６年度までの活動実績等

１　鶴居村スローライフ実行委員会の発足

平成 24 年 4 月、自然の豊かさや地域資源の魅力を認識して、ゆっくり楽しく豊かな時間を過ごす鶴居村ならではのライフスタイルの提案を活動の目的に、子育て世代中心の婦人グループや都市と交流を実践する酪農家、商工青年グループなどが集い発足した。具体的な活動展開を検討する期間を経て、平成 26 年度からふる水事業を活用し、実践活動に移行する。

２　鶴居村の景観、自然環境を体感する「フットパス」を活かした地域交流に関して

ア　北海道大学の学生約 40 名を交えてワークショップを開催し、コース設定の検討と共に路体に木片チップを敷き均すなどコース整備を行った。(6/28)

イ　村役場が企画する健康促進ウォーキング（村民 35 名参加）にコースを組み入れ、フットパスを活用した地域交流に取り組んだ。

また、北海道大学の小林助教を招聘し、ウォーキング後にフットパスの活用についてワークショップを開催した。活用目的を具体的にどう確立させるのかなどの課題を検討し、村内における活用向上を図りながら村外に対しても情報発信を行うなど、他地域からの交流を促す形が理想であるとの考えに基づき、更に検討を重ねることとした。(10/31)

ウ　タンチョウコミュニティ代表の音成氏がガイドを務めた「根釧ツーリズムを考える集い」において、フットパス講習会（村民 20 名参加）を開催し、交流を図った。(11/12)

３　地元の食材を活用した「地域食」に関わる取組みに関して

ア　学生を交えたフットパスに係るワークショップに合わせて、地元の牛乳を使ったヨーグルト料理の試食会を行った。(6/28)

イ　村の納涼まつり（7/25）会場において地元産牛乳を使ったヨーグルト料理、盆踊り大会（8/16）ではチーズ料理の試食会を行い、アンケート調査（各 100 名）を実施した。

ウ　慶応義塾大学の林美香子特任教授を招聘し、「地域食」を学ぶため「食で地域を再発見～地元で食べる大切さ～」をテーマとした地域づくり講演会を開催した。講演会には、村内を始め近隣市町村から約 150 名が参加した。(8/20)

エ　釧路短期大学の岡本匡代准教授を招聘し、「チーズから鹿肉まで、地域で食べることの大切さ」をテーマに地域食の重要性を学ぶ学習会を開催した。村民約 20 名が参加し鹿肉の栄養素などについて学んだ。(12/12)

Ｈ２７年度活動実績

１　鶴居村の景観、自然環境を体感する「フットパス」を活かした地域交流に関して

ア　新たなフットパスのコースや、気軽に参加できるウォーキングコースを設置し、管理運営に関する取組みを具体的に検討した。

- 「鶴居市街散策コース」設置検討（H28 年度開設予定）(8/6)
- 第２コース「村民の森コース」看板設置（8/10）
- 第２コース「村民の森コース」開設（8/31）
- 「タンチョウの郷コース（下雪裡地区)」設置検討（H28 年度開設予定）(11/18)

イ　ガイド（コース案内）養成のための講習会を開催した。

- 「鶴居市街散策コース」ガイド講習会（8/6）
- 第２コース「村民の森コース」ガイド講習会（8/31）
- 「タンチョウの郷コース（下雪裡地区)」ガイド講習会（11/18）

ウ　フットパス運営等に関する勉強会を実施した。

- 村内コースの設置及び利用方法などの勉強会を実施（8/6、11/18）

エ　村民のフットパスへの更なる関心を促すため、コースを活用した交流会のための村民対象探勝会（村民の森コース）を予定していたが、暴風雪のため中止した。(11/24)

オ　フットパス、ウォーキングコースの案内ガイドブックの作成を予定していたが勉強会講習会での意見交換にて、今後のフットパスコースの増設を記載したフットパス郡（ウォーキングマップ）ガイドブックを来年度に作成し、更なる情報発信を図ることとした。(11/18)

2　地元の食材を活用した「地域食」「有機栽培」に関わる取組みに関して

ア　地元食材を活用した食品開発に備え、食品加工やデザイン包装等に関しての勉強会を開催し、「地域食」強いては「地域づくり」への村民の関心を深め、地域活性化を推し進める取組みを検討した。

イ　地元食材を活用した試食会や料理教室を開催しながら、学校給食を活用した食育活動への取組みを検討した。

試食会
納涼まつり（7/17）
盆踊り大会（8/16）
ふるさとまつり（9/23）
いいね！農 style 編集部の伊藤新氏を招き、地域特産品による交流会を実施し、地場産食による活性化の重要性を学んだ。(1/14)

ウ　内外へ本取組みを PR するため、レシピ本やパンフレット等の作成を予定していたが勉強会試食会での意見交換にて、チーズ・ヨーグルト等の乳製品を用いたレシピ集を来年度に作成し、農村にある食文化を広げる。(11/18)

エ　生ゴミを活用した肥料づくり等の講習会及び実習会を実施した。

土壌菌の繁殖状況の確認等（10/13　10/23　10/30）
ホエイによる菌の繁殖を用いた実習会
ホエイ菌と生ゴミを畑に散布（7/10　7/17　7/24）
ホエイ菌による堆肥作り実験（牡蠣貝殻、米ぬか、はちみつを使った菌床づくり）
ハーブの苗にホエイ菌噴霧し、生育状況の違いを確認（６月～１０月　週１回実施）

活動の状況写真

鵜居村の景観、自然環境を体感する「フットパス」を活かした地域交流に関して

フットパス第２コース看板設置の様子

村民対象の秋の探勝会の様子（第２コース）

「鶴居市街散策コース」ガイド講習会

下雪裡地区フットパス設置検討会

フットパス運営等に関する勉強会

地元の食材を活用した「地域食」「有機栽培」に関わる取組みに関して

ホエイによる菌の繁殖を用いた実習会

土壌菌の繁殖状況の確認

別記様式第３号

活動の評価・検証結果

<table>
<tr><th>項　目</th><th colspan="2">内　容</th></tr>
<tr><td>事業実施年度</td><td colspan="2">平成26年</td></tr>
<tr><td>総合振興局等名</td><td colspan="2">釧路総合振興局</td></tr>
<tr><td>活動地区名</td><td colspan="2">鶴居地区</td></tr>
<tr><td>活動団体名</td><td colspan="2">鶴居村スローライフ実行委員会</td></tr>
<tr><td rowspan="2">活動成果における当初･変更計画との比較</td><td>当　初･~~変　更~~</td><td>実　績</td></tr>
<tr><td>〇フットパスを活かした地域交流を図る

〇地元の食材を活用した地域食に関わる取組を行う。</td><td>･北海道大学の学生達とワークショップを開催し、コース設定と共にコース整備を行った。
･村民対象の健康ウォーキングにフットパスコースを取り入れ、村民との意見交換を行った。
･北海道大学の小林助教を招聘し、フットパス活用についてのワークショップを開催した。
･タンチョウコミュニティ代表の音成氏にガイドを依頼し、村民対象のフットパス講習会を開催した。

･村民を対象に、地元の牛乳から作ったヨーグルトを用いての料理教室を開催した。
･鶴居村の夏祭り等のイベント時に地元産の牛乳を使ったヨーグルトやチーズ料理の試食会を開催し、アンケートを行った。
･慶応大学の林特任教授を講師として招聘し、地域食をテーマとした講演会を開催した。
･釧路短大の岡本准教授を講師として招聘し、地域食を学ぶ学習会を開催した。</td></tr>
<tr><td>活動の課題</td><td colspan="2">〇フットパスの取組みについて
･新たなコース作りや、看板等の整備が必要。
･具体的なコースの運営、管理についての検討が必要。
･地元を中心とした更なるフットパスへの理解が必要。
〇地域食の取組みについて
･地元食材を用いたレシピ本を作成し、地域食の意識向上が必要。
･地域活性化への地域食の商品化等の検討が必要。</td></tr>
</table>

次年度の活動方向 (活動の改善点等)	○フットパスの取組みについて ・コース案内看板の設置と、新たなコース整備を行う。 ・専門家からのアドバイス等を受けながら、地域の意見と共に、コースの活用、運営に関して検討を行い、具体的な手法を確立する。 ○地域食について ・「地場産ヨーグルト料理・レシピ集」の作成を行う。 ・商品化を視野に入れて、食品加工、デザインに関する勉強会を行う。
活動状況写真 (別添可)	 ・フットパスコースを利用した村民健康ウォーキング ・林先生による地域食をテーマとした講演会 ・地元食材を用いた料理教室 ・岡本先生による地域食を学ぶ学習会
総合振興局等から見た活動地区及び活動団体の状況	専門家等を招聘し、様々なイベントと関連させながら活動テーマに向けた取組みが行われました。 ただ2つの活動テーマがあることで、具体的な取組みに支障を来たさない活動計画の再検討も必要かと思われます。 今後も実行委員会を中心に、鶴居村、観光協会等との連携を推し進めながらの活動を期待します。

別記様式第３号

活動の評価・検証結果

<table>
<tr><th>項　目</th><th colspan="2">内　容</th></tr>
<tr><td>事業実施年度</td><td colspan="2">平成２７年度</td></tr>
<tr><td>総合振興局等名</td><td colspan="2">釧路総合振興局</td></tr>
<tr><td>活動地区名</td><td colspan="2">鶴居地区</td></tr>
<tr><td>活動団体名</td><td colspan="2">鶴居村スローライフ実行委員会</td></tr>
<tr><td rowspan="2">活動成果における当初･変更計画との比較</td><td>当　初･変　更</td><td>実　績</td></tr>
<tr><td>○フットパスを活かした地域交流を図る。

○地元の食材を活用した「地域食」「有機栽培」に関する取り組みを進める。</td><td>・新たなフットパスコースを設置し、看板設置などの整備をした。

・ガイド（コース案内）養成の講習会を実施し、その後の村民と意見交換ば場を通じ交流を深めた。

・フットパス運営等に関する勉強会を実施した。

・食品加工やデザイン放送塔に関しての勉強会を実施した。

・地元食材を活用した試食会や料理教室を開催した。

・生ごみを活用した肥料づくり等の講習会及び実習会を実施した。</td></tr>
<tr><td>活動の課題</td><td colspan="2">○フットパスの取組について
・村民等の利用者の拡大が必要。
・コースの管理運営についての検討が必要。
○地域食、有機栽培に関する取組について
・地元食材を活用した地域食の意識向上が必要。
・地元食材の安全安心や、資源循環の意識向上が必要。
・地域活性化に貢献する地域食の商品化等の検討が必要。</td></tr>
<tr><td>次年度の活動方向
(活動の改善点等)</td><td colspan="2">○フットパスの取組について
・看板設置等の利用しやすいコース整備を行う。
・村民等への普及啓蒙を行う。
○地域食、有機栽培に関する取組について
・商品化を視野に、食品加工の勉強会や開発実習を行う。
・有機栽培など、地元食材に着目した資源循環に取り組むため、勉強会等を行う。
・レシピづくりや有機栽培などの活動をまとめた小冊子を作成し、地域食の啓蒙を図る。</td></tr>
</table>

<table>
<tr>
<td>活動状況写真
（別添可）</td>
<td>

・フットパス第２コース看板設置　・フットパス運営の勉強会

・「鶴居市街散策コース」
ガイド講習会　・フットパス設置検討会

・ ·ホエイによる菌の繁殖を用いた実習会

</td>
</tr>
<tr>
<td>総合振興局等から見た活動地区及び活動団体の状況</td>
<td>「フットパス」「地域食」「有機栽培」の３つのテーマで、講師を招いた講習会や関係者同士の検討会など、様々な活動が行われました。
今後は、それぞれのテーマ毎に将来目標を見定め、その目標に向けて活動計画を組み直す時期に差し掛かっています。
平成２８年度は、実行委員会を中心に鶴居村、観光協会等との連携を深め、将来の活動の足場を整えるための活動となることを期待します。</td>
</tr>
</table>

別記様式第４号

活動計画

団体名	鶴居村スローライフ実行委員会	市町村名	鶴居村	地区名	鶴居地区

めざす姿

－「鶴居らしさ」につつまれた「美しい村」で暮らす－

鶴居村は、釧路湿原国立公園と阿寒国立公園に囲まれ、恵まれた自然環境を有し、これらの自然環境や気候を活かした酪農や林業を基幹産業とする地域です。特別天然記念物であるタンチョウの貴重な生息地であることから、豊かな自然と美しい農村景観の維持に多くの村民が積極的に取り組んでいます。

鶴居村スローライフ実行委員会では、豊かな自然環境により育まれた酪農業や林業を活かし、乳製品を中心とした安心･安全の地元食材を活用する「食」への取り組みも活発的に取り組んでいます。近年では、安全安心な食づくりへの関心から、酪農村だからできる有機栽培技術の研究に取り組んでいます。また、豊かな自然が日常生活の中に溶け込むきっかけとなるフットパスの整備･利用にも取り組んでいます。地域食･有機栽培･フットパスと、この取り組みにおける「鶴居村らしさ」の発見･育成･発展を通し、村民は鶴居村の地域特性･風土（テロワール）に対して愛着を感じるようになり、心のゆとりを持って暮らすことができます。

またこれらの活動には、先駆的なリーダーだけではなく、鶴居村の持ち味を活かしてこれまで積極的に活動してきた女性や、未来の鶴居村を担う子供たちといった性別と世代を超えた2600人の村びとの参加とともに、鶴居村の自然や生活に魅力を感じたり、関心を持つ来訪者や観光客が村びとと交流することが必要となります。

そして近隣地域をはじめとする道内外地域との連携により、鶴居村の取り組みは奥行きが広がり、持続可能な「美しい村」へと進化しつづけることができ、次の世代へ継承が可能となります。

活動の方向

NO	活動の内容	目標（数値･定性）	解決すべき課題
①	◇フットパスの取り組み◇ 1.　コースの整備について (ア) 自然、景観を活かしたフットパスコースの設定 (イ) 看板の設置など、フットパスコースの整備 (ウ) 案内ガイドの養成 (エ) 先進地視察（コース内容、地域住民の取組など） 2.　フットパスによる地域づくりについて (ア) ワークショップの開催（地元大学生や村内児童の参加） (イ) 村民を対象としたフットパスによる交流 (ウ) 交流人口の獲得（増加） (エ) 専門家の招聘	(ア) 新設2コースを設置する。 (イ) 降雪期除いた常設運営を目指す。 (ウ) 案内ガイドについては、年3名程度養成する。 (エ) 運営など具体的な取り組み手法を習得する。 (ア) 住民活動の活発化と新たな発想を創造する。 (イ) 定期的な軽イベントの開催 (ウ) 初年度は参加者500人を目指す。 (エ) 企画運営などの問題点を把握し整理する。	・ フットパスづくりに関して、ルートになる農地、森林などの地権者との調整及び協議が不可欠である。 ・ 酪農･林業等、農繁期による利用制限など、安全確保の点からも管理体制の整備が必須。 ・ 健康促進など村民への利活用への意識醸成が肝心。 ・ 交流人口増加のため、イベント開催、ガイド養成に加えてパンフレット、HP（SNS など）、多彩な PR 活動が必要。 ・ 関係機関、団体との連携による応援態勢の形成が重要。
②	◇「地域食」に関する取り組み◇ 1.　料理、食品の開発について (ア) 「地域食」に関する勉強会の実施 (イ) 「地域食」に関する料理講習会の実施 (ウ) 「地域食」に関する食味、試食会の実施 (エ) 先進地視察（地産地消に関する） 2.　地元食材を活用した地域づくりについて (オ) 取組みの PR (カ) 「地域食レシピ」配布 ◇「有機栽培」に関する取り組み◇ 3.　有機栽培方法、土壌菌の研究について (キ) 「有機栽培」に関する勉強会の実施 (ク)「有機栽培」に関する講習会の実施	(ア) 定期開催によりスキルアップをする。 (イ) 各年度1品の食品開発をする。 (ウ) 完成度の高い開発食品にする。 (エ) 商品化など具体的な取り組み手法を習得する。 (オ) 販路開拓につながる PR 活動をする。 (カ) 定期開催によりスキルアップをする。 (キ) 定期開催により栽培有機栽培技術を高める (ク) 安全安心な地域食の普及につなげる。	・ 食品づくり、加工技術の向上 ・ 衛生管理の徹底 ・ 販売促進への市場調査及び商品 PR ・ 有機栽培技術の向上 ・ 地域食との関連を深める

3年間の活動プロセス

活動事項	関連NO	平成26年度 内容	平成26年度 予算額（千円）	平成26年度 年度目標	平成27年度 内容	平成27年度 予算額（千円）	平成27年度 年度目標	平成28年度 内容	平成28年度 予算額（千円）	平成28年度 年度目標	最終目標
フットパスの取り組み	①	コース1の整備 コース1の管理	100 40 20	看板設置 草刈等労務作業2回 上記作業に係る燃料	コース1の整備 コース1、2の管理	100 80 40	看板設置、整地 草刈等労務作業2回 上記作業に係る燃料	新コース設置判断 コース1、2の管理	― 40	可否 草刈に係る燃料	
	①	案内ガイド養成	15	講習会1回	案内ガイド養成	15	講習会1回	案内ガイド養成	―	講習会1回	
	①	先進地視察	50	別海町1回							
	①	コース設定検討	―	コース2の検討	コース設定検討	―	コース3の検討				
	①	ワークショップ開催	60 35	小林教授招聘1回 上記に係る旅費	実行委員会への助言	30 35	小林教授招聘1回 上記に係る旅費	実行委員会への助言	30 35	小林教授招聘1回 上記に係る旅費	
	①	村民交流3回	45	ガイド付き3回	村民交流3回	30	ガイド付き2回	村民交流3回	15	ガイド付き1回	
	①	交流人口増、PR	―	ネット配信、IP 電話活用	交流人口増、PR	50	ガイドパンフ印刷費	交流人口増、PR	500	ガイドパンフ印刷費	
地元食材による「食」の取り組みと安心安全な暮らしにおいての有機栽培の取り組み	②	先進地視察	80	十勝管内1回							
	②	勉強会1 「地域食」に関わる講演	30 35 30	林美香子氏招聘1回 上記旅費 勉強会に係る消耗品費	食品加工に関わる勉強会	30 35 30	食品加工に関わる講師 上記旅費 勉強会に係る消耗品費	勉強会	30 35	管理業務に関わる講師 上記旅費	
	②	勉強会2	30 35 30	地域食の重要性に関わる講師 上記旅費 勉強会に係る消耗品費	食品開発実習	120	材料費×3回				

		②	勉強会3	30 35	乳製品の効用に関わる講師 上記旅費	食味、試食会	200	材料費×5回				
		②	講習会	30 120	講師×3回 材料費×3回	有機栽培に関する 勉強会	30 35 30	有機栽培に関わる講師 上記旅費 勉強会に係る消耗品費				
		②	食味（イベント時）	150	材料費×5回	土壌菌に関する 勉強会	30 35 30	土壌菌に関わる講師 上記旅費 勉強会に係る消耗品費				
		②	試食会（村民対象）	200	材料費×1回	有機栽培実習	420	材料費×6回				
		②	食育活動	130	材料費×1回	ワークショップ	180	材料費×3回	食育活動	600	材料費×6回	
		②	取組みの PR	―	ネット配信、IP 電話活用	活動報告	60	パンフレット印刷費	食の PR	300	開発食品の広告チラシ	
		②	「食」のレシピ印刷	200	800部　村内配布							

関係者等	釧路丹頂農業協同組合	
	鶴居村森林組合	
	鶴居村商工会	
	タンチョウコミュニティ（丹頂保護団体）	
	上幌呂チーズ研究会	
	ハーブンマージュ（農村女性起業化グループ）	

北海道中山間ふるさと・水と土保全対策事業
地域活動支援事業に係る予算執行状況及び活動状況

事業実施年度	平成２８年度			
総合振興局等名	釧路総合振興局			
活動地区名	鶴居地区	活動団体名	鶴居村スローライフ実行委員会	
目的（ねらい）	項目（費目）	内　容	金　額	積算根拠
フットパスの取り組み	フットパスコース整備。	看板作成（納品済）	199,800 円	▼需用費
	村民を対象としたフットパスによる交流	村民交流（6/30 実施）	15,000 円	▼報償費 15,000 円 講師費 5000×3H
	フットパス普及啓蒙	ガイドブック製作（つるいフットパスガイドブック）（完成済）	249,912 円 計 464,712 円	▼委託料
地元食材を活用した取り組み	「地域食」に関わる料理講習会の実施	食品開発実習（ヨーロッパのお洒落な地産地消を学ぶ）（11/29.30 実施）	323,228 円	▼報償費 104,500 円 講師料　14,000×5.5 講師料　5,000×5.5 ▼旅費　60,520 円 飛行機　33,100 円 私鉄　1,220 円 宿泊　19,600 円 ▼需用費 158,208 円
	有機栽培の取組	生ゴミ堆肥を使用した花の育成実験	77,760 円	▼需用費
	地域食と有機栽培等活動小冊子作成	小冊子製作（スローライフ実行委員会活動ＰＲパンフレット）（３月完成予定）	547,560 円 計 870,788 円	▼委託費 550,000 円

予算執状況	配当額	執行済額	執行予定額	残額
報償費（08）	135,000 円	15,000	104,500 円	15,500 円
旅費（09-99）	159,000 円	28,400 円	60,520 円	70,080 円
需用費（11-99）	660,000 円	435,768 円	0 円	224,232 円
委託料（13）	800,000 円	249,912 円	547,560 円	2,528 円

■日高町里平地区

採択年度	H26 年度	活動団体名	食楽カモミールの会

Ｈ２６年度までの活動実績等

１．地域食材を利用した活動に関して

（１）里平御膳開発に向けた料理研修

・H26 年 6 月、美瑛町にあるレストランﾋﾞﾌﾞﾚに行き、農家レストランに関して先進地視察を行った。(6 名参加)

・同 7 月に地区内地域センターにて里平御膳用ソースのため、 バジルソース試作を行った

・同年 8 月に新冠町レストランアンジェロにて、シェフ野村忍氏を講師として里平御膳用トマトソース、南瓜スープ･カッポナータ試作を行った。また同月末に習得技術の再確認を行うために、地域センターにて会員のみで再実習を行った。

・同 8 月に地域センターにて 里平御膳用しそジュース試作実習を行った

・同 10 月アンジェロにて野村氏をアドバイザーとして迎え、第一次試作品作成のためメニュー考察会及び今後の研修内容の詳細検討を行った

・H27 年 1、2月にアンジェロにて野村氏をアドバイザーとして迎え、第一次試作品作成を行った。

（２）麹作りの技術の習得に関して

・H26 年 10 月高橋こうじ店高橋好子氏を講師として、麹作成技術の習得を行った。

・同 11 月地区内地域センターにて 麹を利用した飯寿司作り実習を行った

・同年同月麹加工品の販売方法に係る先進地視察として、東川町平田麹店に行った

Ｈ２７年度活動実績

１．地域食材を利用した活動に関して

（１）北大農学研究院浅野名誉教授による麹づくりの勉強会開催

①現地視察

・麹づくりの指導を受けている日高町の「高橋こうじ店」を視察し、製造工程や麹小屋移設へのアドバイスを受けた。

②発酵学講義

・麹菌の特性や利用状況など「麹」に関する基礎講座を受講し、麹の基本的知識を取得した。

・麹づくりの疑問等を講師に質問することで、自分達の麹づくりに対するイメージを膨らませることが出来た。

（２）麹づくりの技術習得

①麹づくり技術を習得する研修会を実施

・高橋こうじ店の高橋好子氏を講師として、麹づくりの技術習得を行う。

・高橋こうじ店の年内製造工程にあわせて、全作業工程を複数回実習することで、麹づくりに関する基本的技術を習得する。

・11月14日から11月30日まで4工程実習。

・実習後の聞き取りでは、温度管理への熟度向上、更なる研修要望が出た。

・蒸米の急冷や麹室内の温度管理について、里平にあった方法を模索しており、今後も講師等からのアドバイスが必要と感じた。

（３）麹づくりの拠点完成

①高橋こうじ店から里平への麹小屋移設

・麹の製造拠点整備に向け、3月中の完成を目指す。

活動の状況写真

■地域食材を利用した活動に関して

（1）北大農学研究院浅野名誉教授による麹づくりの勉強会開催

①現地視察

□発酵学講義

（2）麹づくり技術を習得する研修会を実施

①麹づくり研修

※麹蓋の熱湯消毒中

※完成した麹のふるい掛け

活動の状況写真

■地域食材を利用した活動に関して

（３）高橋こうじ店から里平への麹小屋移設

①麹小屋移設

※基礎束石埋設のため掘削中

※内壁の間柱設置中

別記様式第４号　　2016/7/14現在

活動計画

団体名	食楽カモミールの会	市町村名	日高町	地区名	里平
めざす姿	○ 里平の食や歴史、伝統文化などを発掘及び開発し、それらを活かして、住んでいる人も楽しみ、来てくれる人たちに感動をもたらす取組を行う				

活動の方向	NO	活動の内容	目標（数値・定性）	解決すべき課題
	①	**■地域食材を利用した活動** 昔ながらの麹技術の伝承と麹を活かした地元食材による里平ならではの食づくり ◇麹と地元食材を活かした里平御膳の提供 ・麹づくり研修 ・麹づくりに係る麹小屋移設 ・麹小屋による麹づくり ・里平御膳開発に向けた料理実習 ・里平御膳の開発（試作） ・販売促進に係る先進地視察 ・食味・試食会 ・販売促進活動	・麹小屋の移設を行い、麹づくりの拠点を設ける。 ~~・里平御膳開発作業の拠点を作る。~~ ~~・里平御膳開発における確実なレシピ作りを行う。~~ ・麹~~及び里平御膳~~商品化に向ける具体的方法を確立する。 ・販売手法及び販売場所の確立を行う。	・農繁期の活動体制に不安がある。 ・先進地域活動事例の情報収集。 ・地域内への情報発信と活動への理解を得る必要がある。 ・販売を行うため、関係部署との協議が必要。 ・衛生管理について徹底する必要がある。
	②	~~■地域性を活かした活動~~ ~~◇①の里平御膳を手芸・工芸品（皿等）を使って提供~~ ~~・里平御膳に合う手芸・工芸品の開発~~ ~~・工芸家視察~~	~~・手芸・工芸品制作作業の拠点を作る。~~ ~~・皿、手芸品を開発し、①の里平御膳と合わせて提供を行うので、作品テーマの確立を行う。~~	~~・アドバイザーからの指導、評価体制が必要~~ ~~・材料の確実な確保~~ ~~・制作技術の向上~~ ~~・御膳にマッチした手芸・工芸品の開発と安定的な供給~~
	③	**■情報発信に関する活動** ◇活動状況の発信 ・麹や里平御膳の開発内容及び状況の情報発信	・広報誌、インターネットの活用し定期的に活動内容の情報発信を行う。 ・地域内外での行事等への参加、麹料理等の試食会を行い、意見聴取から改善点を見つける。	・活動継続への対応、活動の役割分担の確立。 ・他機関との連携推進、地域活性化への手法検討。

3年間の活動プロセス	活動事項	関連NO	平成 26年度 内容	平成 26年度 予算額 千円	平成 26年度 年度目標	平成 27年度 内容	平成 27年度 予算額 千円	平成 27年度 年度目標	平成 28年度 内容	平成 28年度 予算額 千円	平成 28年度 年度目標	最終目標	適用事業
	食の開発・販売	①	先進地視察	87	6月 美瑛町廃校小学校舎利用レストランへ販売促進に係る先進地視察を行う。	先進地視察	~~100~~ 0	~~販売促進に係る先進地視察を行う。~~				里平ブランドの確立	中山間ふるさと・水と土保全対策事業
		①	先進地視察	108	~~10月石狩市生振地区の糀加工品販売施設視察し、販売方法に係る先進地視察を行う。~~ 11月東川町平田こうじ店に先進地視察。								
		①	加工品研修	~~384~~ 200	新冠町レストランアンジェロシェフを講師に、里平御膳開発（里平ボウル等）に向けた料理研修を行う。（8回）	加工品研修	~~85~~ 0	~~新冠町レストランアンジェロシェフを講師とし、里平御膳開発(糀パン、デザート)に向けた料理研修を行う。（7回）~~	里平御膳の再検証	~~100~~ 0	~~里平御膳の検証作業~~		
		①	麹づくり実習	~~85~~ 75	11月 日高町厚賀にて高橋好子氏を講師に、麹づくりの技術習得を図る。（5回）	麹づくり研修	~~600~~ 443	日高町厚賀にて高橋好子氏に麹づくりの技術習得を委託し、商品化に向けた試作品を完成させる。	麹づくり実習	45	日高町里平にて高橋好子氏を講師に、麹づくりの技術を習得する。		
		①	麹小屋移設	~~300~~ 292	麹小屋移設。 麹菌が付着した床板材等を移設	麹小屋移設	~~300~~ 255	麹小屋移設。 麹菌が付着した壁板材等を移設	麹小屋移設	100	麹室蓋の作成。		
		①							麹の商品化	~~200~~ 50	~~麹の販売委託を行う~~ ~~麹の直営販売を行う~~ 麹を活用した商品のパッケージ作成。		
		①	勉強会	~~34~~ 31	地区内センターにてフードライター小西由稀氏に地域活動の勉強会講師を依頼。	勉強会	~~40~~ 0	~~地区内センターにてフードライター小西由稀氏に地域活動の勉強会講師依頼。~~	食味・料理試食・意見交換会	~~200~~ 145	~~モニターツアーの実施を行い、里平御膳の試験提供を行う~~ 里平産麹を利用した試食会を実施し、料理等について意見交換を行う。		
		①				勉強会	~~140~~ 56	北大　浅野先生の発酵学勉強会に参加。					
	~~工芸品開発・販売~~	②				~~手芸・工芸実習~~	~~75~~ 0	~~成田せいこ氏を講師として迎えパッチワーク等作りの技術の習得を図る（3回）~~				~~里平ブランドの確立~~	~~中山間ふるさと・水と土保全対策事業~~
	~~情報発信・交流促進~~	③				~~講習会~~	~~100~~ 0	~~情報発信手段に関する講習会開催。~~	~~コンサルタント委託~~	~~500~~ 0	~~情報発信に係る委託業務。~~	~~里平ブランドの確立~~	~~中山間ふるさと・水と土保全対策事業~~
関係者等			998			1440			1145				
			793			754			340				

別記様式第３号

活動の評価・検証結果

項　目	内　容	
事業実施年度	平成 26 年度	
総合振興局等名	日高振興局	
活動地区名	里平地区	
活動団体名	食楽カモミールの会	
活動成果における当初・変更計画との比較	当　初・変　更	実　績
	1先進地視察	1先進地視察 (1)美瑛町　レストラン bi.ble(ビブレ)視察(6 名) ①視察内容 ・小学校廃校を利用したレストランの視察 ②結果 規模・内容等が、地区の想定内容と異なっていた。 (2)東川町　平田こうじ店視察(6 名) ①視察内容 麹の販売促進に係る先進地視察 ②結果 麹に関する知識を得ることができた。 麹の販売方法について勉強できた
	2加工品研修	2加工品研修 (1)新冠町　Ristrante Angelo にて料理研修 ①研修内容 里平御膳、里平ボウル完成に向けた料理研修(4 回) ②結果 里平ボウルのメニュー完成に至った。
	3麹作り実習	3麹作り実習 (1)日高町　高橋こうじ店にて麹作り実習 ①研修内容 麹作り技術の習得研修(11 月、3 月予定) ②結果 麹作りに関して、技術の習得を図った

	5麹小屋移設 6 勉強会	5麹小屋移設 ①内容 地域内におき、麹の室を作成。(3月予定) ②結果 6勉強会 ①内容 フードライター小西由稀氏を招き、今年度の活動状況より、次年度の活動方向に関して勉強会を開催(予定) ②結果
活動の課題	・里平御膳の活用方法 メニュー確定後の方向性(販売するのか？等) ・麹の活用法 麹作成技術取得後の方向性(里平御膳と同様) ・里平御膳と麹の融合 麹パンの作成 ・地域住民及び関係団体 組織の人間だけでなく、役場や地域住民等との意識の共有化	
次年度の活動方向(活動の改善点等)	・里平御膳の確定 料理研修を行い、メニューの確定および技術の習得 ・麹作りの実習 麹作成技術の確実な習得 ・方向性の検討 今後、どこを目指すか？何を相手にするのか？今ある地域の資源豊富であるが、方向性が決まっていない。 全体的にコーディネートできる人材の育成が必要	

活動状況写真 （別添可）	【平田こうじ店視察】 【Ristrante Angelo 料理研修】
総合振興局等から見た活動地区及び活動団体の状況	地域の食材を利用し、何とかして活性化を図ろうと常に考えていると思える。ただし、その地域食材を活かし、里平として進むべき道を描く人材が不足していると感じる。 　今後は専門家等のアドバイスを受け、少しづつでも着実に進むべき道を構築し、地域づくりの発展をしていただきたいと感じる

別記様式第３号

活動の評価・検証結果

項　目	内　容	
事業実施年度	平成 27 年度	
総合振興局等名	日高振興局	
活動地区名	里平地区	
活動団体名	食楽カモミールの会	
活動成果における当初・変更計画との比較	当　初・変　更	実　績
	1 麹づくり研修	1 麹づくり研修 日高町高橋こうじ店で麹づくり実習 ①研修内容 麹づくり全般の技術習得 ②結果 麹づくり全般の技術習得を図った
	2 麹小屋移設	2 麹小屋移設 ①地域内に麹づくりの拠点整備 3月中に完成させる予定 ②結果
	3 勉強会	3 勉強会 ①北大農学研究院浅野名誉教授を講師に発酵学の講義を実施 結果 麹をはじめ、飯寿司、味噌などの発酵食品に対する見聞を深めた
活動の課題	・麹の活用法 麹作成技術取得後の方向性（味噌などの商品化） ・地域住民及び関係団体 組織の人間だけでなく、他の地域住民等との意識の共有化 活動内容のPR	
次年度の活動方向（活動の改善点等）	・麹づくりの実習 地域内に設置した施設での麹づくり技術の確実な習得 ・方向性の検討 今後、どこを目指すか？何を相手にするのか？ 今ある地域の資源豊富であるが、方向性が決まっていない。 全体的にコーディネートできる人材の育成が必要。 現会員より下の世代へどうつなげるか。	

活動状況写真 （別添可）	【麹づくり研修】 【麹小屋移設】 【勉強会】
総合振興局等から見た活動地区及び活動団体の状況	地域の食材を利用し、何とかして活性化を図ろうと常に考えているが、里平として進むべき道を描く人材が不足していると感じる。 現会員以外の地域住民が本活動へかかわる機会がほとんどないため、役場広報やインターネットなどを活用する検討が必要。 今後も専門家等のアドバイスを受け、少しづつでも着実に進むべき道を構築し、地域づくりを発展させていただきたいと感じる。

○○地区における評価について（案）

1　○○地区の活動内容について

（１）地域及び活動団体の概要

（主に北海道ふるさと・水と土保全対策事業の実施前の状況）

地域の位置、気候、産業などを記載。

―　事務局記述　―

（２）活動の推移

活　動　事　項	年　度	活　動　状　況
―　事務局記述　―		

【活動状況写真】

（３）活動への委員会の助言と反映状況

①　委員会における主な助言内容

―　事務局記述　―

②　委員会の助言の反映及び効果

―　事務局記述　―

（４）目標の達成度

活動計画に明記した目標（数値・定性）の達成状況を以下に示す。

目標（数値・定性）	目標の達成状況
―　事務局記述　―	

2　森地区の活動の評価について

当該地区の活動を、① 活動の状況、② 活動への支援体制、③ ふる水事業の目的（趣旨）達成の可能性、という三つの視点に基づき評価する。

①　活動の状況

―　委員会記述　―

②　活動への支援体制

―　委員会記述　―

③　ふる水事業の目的（趣旨）達成の可能性

―　委員会記述　―

評価とりまとめに当たってのスケジュール

・１２月８日　第２回委員会　フォーマット決定　各委員へメール送付
・　１月末日　事務局までコメント送付
・　２月上旬　山本座長へとりまとめ依頼
・　２月末日　山本座長とりまとめ
・　３月上旬　各委員へ評価（案）送付
・　３月中旬　第３回委員会で決定

別記様式第２号

地域活動支援事業に係る予算要求書

事業実施年度	平成２８年度			
総合振興局等名	根室振興局			
活動地区名	別海地区	活動団体名	チームＮＫＢ	
目的（ねらい）	項目（費用）	内容	金額（円）	積算根拠
先進地視察	役務費	先進地である鶴居村のハートンツリーにてハーブの栽培方法、活用方法等について体験・意見交換を行う。 ・バス借り上げ（日帰り～町有バス） ~~・講師謝金（4時間×14,000円）~~ ・体験研修（ハーブクリーム、ハーブソルト）	99,792	
		小　計	99,792	
栽培技術及び利活用講習会	報償費 旅費 使用料及び賃借料	ハーブ・ガーデンの取り組みをスタートさせるにあたり、必要な栽培技術及び利活用技術の習得に向けた講習会の開催（@別海町内、~~鶴居の服部氏を想定~~）。 ・講師謝金（3時間×14,000円） ・旅費（航空機往復 ~~鶴居～釧路～厚床～別海~~、1泊2日） ・会場借り上げ　町施設を活用	42,000 63,000 0	
		小　計	105,000	
バーブ・ガーデン	需用費 需用費 需用費	メインの活動となるハーブ・ガーデンの開設。市街地1箇所~~、支所4箇所の計5箇所~~。 ・苗 ・肥料 ~~・ビニールハウス（2棟）~~ ・園芸用具（ネット ~~農機具庫、スコップ、軍手等~~）	24,408 1,706 8,100	
		小　計	34,214	
加工技術研修	需用費 使用料及び賃借料	~~先進地である鶴居村のハートンツリーにて~~ハーブを活用した加工技術について学ぶ。 ~~・バス借り上げ（2日）~~ ~~・講師謝金（6時間×5,000円×1名）~~ ・材料代 ・施設使用料	10,000 6,000	
		小　計	16,000	
~~ハーブ・キッチン~~		~~専門家を招聘して、ハーブを活用した商品開発に向けた講演、加工体験の開催。講師未定（札幌在住を想定）。参加者25名を想定。~~ ~~・講師謝金（3時間×14,000円）~~ ~~・旅費（飛行機往復、1泊2日）~~ ~~・会場借り上げ（農漁村加工体験施設）~~ ~~・食材等~~		
		小　計	0	
合計			255,006	
			42,000 63,000 44,214 99,792 0 6,000	報償費 旅費 需用費 役務費 委託料 使用料及び賃借料
費目内訳			255,006	

別記様式第2号

地域活動支援事業に係る予算要求書

事業実施年度	平成29年度			
総合振興局等名	根室振興局			
活動地区名	別海地区	活動団体名	チームNKB	
目的（ねらい）	項目（費用）	内容	金額（円）	積算根拠
先進地視察	使用料及び賃借料 報償費 役務費	先進地（未定）を訪れ栽培・活用方法等について体験・意見交換を行う。 ▸バス借り上げ ▸講師謝金（4時間*14,000円） ▸体験研修	160,000 56,000 90,000	
		小　計	306,000	
親子イベント	使用料及び賃借料 需用費	ネットワーク作りの一環として、親子参加型の加工体験の開催。 ▸会場使用料 ▸材料費	10,000 40,000	
		小　計	50,000	
栽培技術講習会	報償費 旅費	ハーブ・ガーデンの取り組みを継続するにあたり、講師（未定）を招聘して、必要な栽培技術の習得に向けた講習会の開催。 ▸講師謝金（4時間*14,000円） ▸講師旅費（札幌からの航空機往復、1泊2日）	56,000 64,000	
		小　計	120,000	
ハーブ・ガーデン	需用費 需用費 需用費	ハーブ・ガーデンの開設、整備。メイン1箇所、サブ3個所。 ▸苗 ▸肥料 ▸園芸資材	100,000 4,000 30,000	
		小　計	134,000	
ハーブ・キッチン	報償費 旅費 使用料及び賃借料 需用費	講師（未定）を招聘して、ハーブを活用した料理・食品に係る講演、加工体験の開催。 ▸講師謝金（4時間*14,000円*2回） ▸講師旅費（札幌からの航空機往復1泊2日*2回） ▸会場使用料 ▸材料費	112,000 128,000 20,000 80,000	
		小　計	340,000	
合計			950,000	
			224,000 192,000 254,000 90,000 0 190,000	報償費 旅費 需用費 役務費 委託料 使用料及び賃借料
費目内訳			950,000	

別記様式第4号

活動計画

団体名	チームNKB	市町村名	別海町	地区名	別海地区
めざす姿	～花とハーブのネットワークづくり～ 町内の酪農女性、特に道外出身の方は酪農業や家事に追われ、積極的な仲間づくりが進んでいない。また、町内の地域資源は乳製品に偏っており、農家個々が高付加価値商品を開発するには至っていない。このことから、新たな地域資源として、まずはハーブをテーマとした取り組みをすすめ、オール別海の女性の輪づくりを並行させながら、地域の活性化の糸口とする。				

活動の方向

NO	活動の内容	目標（数値・定性）	解決すべき課題
①	○酪農女性の仲間づくり 道外出身者の活動の場ということを視野に入れながら、酪農業を営む女性の活動母体（ネットワーク）づくりを進める	・定期的な交流会の開催（年2回）	・普段交流のない酪農女性の参加促進 ・魅力ある活動を継続することにより定期的な交流会の開催
②	○ネットワークの拡大 酪農女性を中心とした活動母体に、町内外の他団体（女性中心の団体を想定）を巻き込んでいく	・3年目には他団体との連携	・町内外の女性ネットワークの構築 ・特に関係が希薄な農業者と漁業者のつながり（ネットワーク）の構築
③	○ハーブなど新たな地域資源の発掘 寒冷地であり限られた地域資源に、新たな要素を生み出すよう、まずは冷涼地帯に適しているハーブを中心に、新たな地域資源を発掘していく	・各農家でハーブ栽培の普及 ・ハーブを使った商品の開発	・栽培技術及び加工技術の習得 ・販売方法、販売先の検討
④	○別海の魅力発信 上記①～③の活動について、町内外を問わず広く発信していく	・機関紙の発行	・取組みの認知 ・参加者の拡大

3年間の活動プロセス

活動事項	関連NO	平成28年度 内容	平成28年度 予算額	平成28年度 年度目標	平成29年度 内容	平成29年度 予算額	平成29年度 年度目標	平成30年度 内容	平成30年度 予算額	平成30年度 年度目標	最終目標	適用事業
仲間づくり	①	先進地視察	100 ~~56~~ 千円	1回（鶴居村）	先進地視察	306 ~~300~~ 千円	1回（道内）					ふるさと・水と土（地域活動支援事業）
	②				児童館（又は加工センター）での親子イベント	50 ~~100~~ 千円	1回／年	児童館（又は加工センター）での親子イベント	200千円	2回／年		
ハーブ栽培の取組み	③	栽培技術及び利活用講習会	105 ~~64~~ 千円	1回／年	栽培技術講習会	120 ~~100~~ 千円	1回／年					
	③	ハーブ・ガーデン（苗・肥料・~~ネット・ビニールハウス~~）	34 ~~180~~ 千円	メイン1ヶ所、~~サブ5ヶ所~~	ハーブ・ガーデン（苗・肥料）	134 ~~150~~ 千円	メイン1ヶ所、サブ3 ~~7~~ ヶ所	ハーブ・ガーデン（苗・肥料）	150千円	メイン1ヶ所、サブ10ヶ所		
	③	~~ハーブ・キッチン（商品の試作）~~	~~140千円~~	~~1回／年~~	ハーブ・キッチン （調理加工体験 ~~商品開発~~）	340 ~~200~~ 千円	2回／年	ハーブ・キッチン （商品開発） （海産物を含む）	300千円	2回／年		
商品開発	②③											
	②③	加工技術研修	16 ~~300~~ 千円	1回（別海町 ~~鶴居村~~）	~~コーディネーターによる講習会~~	~~100千円~~	~~1回／年~~	コーディネーターによる講習会	100千円	1回／年		
	②③							品評会（JA、JF、商工）の開催	50千円	1回／年		
情報発信	①④	~~産業祭での試供品配布~~	~~100千円~~	~~1回／年~~	産業祭での試供品配布	~~100千円~~	1回／年	産業祭での試作品販売	200千円	1回／年		別海町
	①④	農業士会での試供品配布		1回／年	酪農女性のつどいでの試供品配布	~~50千円~~	1回／年	季節販売ブースの確保	50千円	1回／年		
	②④							機関紙の発行（各イベント等）	150千円	1回／年		
	②④							就農イベント・菊と緑への参加	300千円	1回／年		

関係者等	
別海町女性農業士会	事務局：別海町産業振興部農政課
別海酪農女性のつどい	事務局：別海町産業振興部農政課
根室農業改良普及センター	

別記様式第２号

地域活動支援事業に係る予算要求書（案）

事業実施年度	平成２９年度			
総合振興局等名				
活動地区名	七飯	活動団体名	七飯の食を考える会	
目的（ねらい）	項目（費用）	内容	金額（円）	積算根拠
勉強会 「食育・食材を思う」及び「ななえ食：歴史」 （メンバーに対する意識醸成）	（報償費） （旅費） （需用費） （使用料）	勉強会	84,000	評論家　14,000円×6H
			30,000	JR往復・ホテル1泊　札幌⇔七飯
			10,000	教材（マジック、紙等）
			0	（七飯町）
		小　計	124,000	
「ななえ食：地域食」体験・調理 （軍川小学校子ども体験学習2回）	（報償費） （需用費） （需用費） （需用費） （需要費）	体験（大豆種まき、収穫＆調理（大豆加工）	112,000	講師14,000円×４H×2回
			100,000	（1回目　種、肥料、栽培道具）
			50,000	（2回目　食材等）
			10,000	教材（マジック、紙等）
			2,000	ゴミ袋等
		小　計	274,000	
「ななえ食のフルコースALL七飯産」和食 （軍川小学校子ども体験　板前と調理・試食会）	（委託料） （委託料） （需用費）	板前と調理	84,000	料理長　14,000円×６H
			100,000	米（１０ｋｇ）野菜（5種）
				果物（3種）
				肉（1種）
				調味料外1式
			10,000	教材（マジック、紙等）
		小　計	194,000	
「ななえ食のレシピ作成」2回 （メンバーの調理・試食会）	（委託料） （委託料）	ななえ食レシピ作成(2品）	84,000	料理長　14,000円×３H×2回
			34,000	レシピ2品の食材
		小　計	118,000	
ななえ食の活動ＰＲ （全学校へ向けて子ども達へ発信等及び会の活動紹介）	（委託料） （委託料）	ななえ食パネル ななえ食レシピ及び会の活動紹介	450,000	10小中学校+5会・役場ほか＝15パネル
				パネルA1　1枚で四季を表現
			350,000	パンフ　3000部（デザイン・イラスト含む）
		小　計	800,000	
合計			1,510,000	
			196,000 30,000 182,000 1,102,000	報償費 旅費 需用費 役務費 委託料 使用料及び賃借料
費目内訳			1,510,000	

別記様式第４号

活 動 計 画

団体名	七飯の食を考える会	市町村名	七飯町	地区名	七飯
めざす姿	◇子どもから大人まで 「ななえ食」を学ぶ （七飯町は西洋農業発祥の地であり農作物（大根、人参等根菜類及び長ネギ）の収穫も道南では上位を占め、又緑豊かな森と湖の大沼地域は酪農（肉牛）や水産、まさしく食の宝庫である。） ・未来を担う子ども達及び地域住民に、「ななえ食」を再認識してもらい、産地見学・学習体験等を通して、ふるさとである七飯町に愛着を持つ環境を整える。 ・「ななえ食」を活用した産地見学会（収穫体験）や料理の開発、加工品等により七飯町の魅力を町内外に発信する。				

活動の方向	NO	活動の内容	目標（数値・定性）	解決すべき課題
	①	◇「ななえ食」の地域資源に関する取組み ・食材（農林水産物）の再発見！ ・地域住民と生産者（地域講師）の交流・勉強会	・地域活動勉強会の開催 ・生産者（地元講師）の学習会の開催	・子どもから大人まで「ななえ食」の歴史を知り食を知る企画促進。 ・地域内全体での地域講師の発掘。 ・異世代交流方法（地域講師と子ども達）
	②	◇「ななえ食」の体験塾（仮称）（食育・調理加工・木育等）に関する取組み ・子ども参加型（地域モデル校：軍川小学校） ・地域住民参加型	・産地見学会・体験学習会及び加工工場見学会の開催	・提供者、ボランティアなど運営問題、指導整備が必要。 ・他校での取組みをする学校等の増加 ・地域内での産地見学場所の選定
	③	◇活動内容の地域への周知及び理解の促進	・会のメンバー増員 ・ボランティアスタッフ増加	

	活動事項	関連NO	平成２８年度 内容	予算額	年度目標	平成２９年度 内容	予算額	年度目標	平成３０年度 内容	予算額	年度目標	最終目標	適用事業
３年間の活動プロセス			地域活動勉強会	15万円	1回/年(11月)	地域活動勉強会	15万円	1回/年(11月)				[ななえ食]の再認識及び、地元講師の発掘･登録する。	中山間ふるさと･水と土保全対策事業(地域活動支援事業)
									地域活動勉強会	10万円	1回/年(5月)		
			「ななえ食」 子ども産地見学2回~~(1回/3ヶ所)~~	3~~10~~万円	2回/年(6月、9月)							産地見学、体験学習、調理加工を実施することにより、地元の生産者との触れ合い通して地元の良さを再認識する。	
			「ななえ食」 子ども フルコース調理体験(洋食)	28~~25~~万円	1回/年10月	「ななえ食」 子ども 一汁三菜(ご飯、汁物)調理体験(和食)	19万円	1回/年(10月)					
						~~「ななえ食」 子ども 工場見学(1回/3ヶ所)~~	~~5万円~~	~~1回/年(9月)~~					
						「ななえ食」 子ども 作付け～収穫～調理･加工	27~~70~~万円	2回/年~~1回/通年~~					
						「ななえ食」の調理体験 七飯の食を考える会員を対象	10万円	2回/年(春、夏)	「ななえ食」 地域住民 産地見学(1回/3ヶ所)	5万円	1回/年(9月)		
			~~「ななえ食」のレシピ作成~~	~~35万円~~	~~3、000部カラー~~	「ななえ食」のレシピ及び会の活動紹介パンフ作成	35万円	3、000部カラー				会の活動内容を地域住民に理解してもらうこと及び「ななえ食」の魅力をPRすること。	
			~~「ななえ食」のパネル作成~~	~~45万円~~	~~15部(A1)~~	「ななえ食」のパネル作成	45万円	15部(A1)					
						~~「ななえ食」の体験地図産地パンフ作成~~	~~30万円~~	~~3、000部カラー~~					
									「ななえ食」の地元講師とりまとめパンフ作成	25万円	3、000部カラー		
									「ななえ食」 食育活動とりまとめ本(冊子)作成	120万円	1、000部24Pカラー		

関係者等	
七飯の食を考える会	
七飯町	
七飯町立軍川小学校	

＊「ななえ食」とは、七飯町で生産･加工されたすべての食材(農林畜水産物)

別記様式第2号

地域活動支援事業に係る予算要求書

事業実施年度	平成28年度			
総合振興局等名	空知総合振興局			
活動地区名	岩見沢市北村豊正	活動団体名	豊正FAM協議会	
目的（ねらい）	項目（費用）	内容	金額（円）	積算根拠
①北の大地マルシエ直売事業 生産車組織「北の大地マルシエ」（空き店舗を活用した直売所）を設立し、他地域から多くの人に訪れてもらうとともに、地域住民が集う場所としてのカフェ事業を開業し、地域の活性化を図る。	直売・加工・交流に係る勉強会（使用料及び貸借料）	先進的な直売・加工・消費者交流事例の視察及び現地での意見交換を通じて指導・助言を得る。	120,000	バス借り上げ料
				(富良野・美瑛方面視察40人乗)
	販売促進に係る資材（エプロン・のぼり等）の導入（需用費）	直売所の販売促進を円滑におこなうため、資材等を導入する。	160,000	需用費
				エプロン@4,860円*15枚
				のぼり@7,300円*10本
				横幕@7,500円*1枚
	PRポスター・チラシ作成（需用費）	北の大地マルシエ直売所のＰＲポスター、チラシを作成し、周知を図る。	120,000	需用費
				ﾎﾟｽﾀｰ100部 ﾁﾗｼ1,000部
				ﾎﾟｽﾀｰ@800円*100部
				ﾁﾗｼ@40円*1,000部
		小　計	400,000	
②北の大地マルシエ加工事業 直売所に加工設備を併設し「塩ゆで落花生」の加工販売や地場農産物を活かした加工品の研究を行う。	加工販売に係るマーケティング研修会（報償費）	加工品販売に係るマーケッティング研修を行い、接客技術の向上を図る。（講師：岩見沢市サンプラザホテルの支配人）	20,000	報償費
				10,000円×2H　1回/年
	加工技術向上に係る研修会（報償費＋需用費）	地場農産物を活用した料理の実習により、加工品開発に役立てる。（講師：岩見沢市イタリアンレストラン「ピーノ」シェフ）	40,000	報償費
				10,000円×4H　1回/年
			30,000	需用費（食材費）1回
				材料費：1,000円/人＊30名
		小　計	90,000	
③交流事業　～フットパス・落花生まつり 従前から実施している交流事業の一層の充実を図り、更なる北村豊正ファンを獲得し、他地域や都市との交流、異業種交流、福祉団体との連携など、複合的な活動を進める。	コースの整備（需用費）	フットパス駐車場の案内版とフットパス会場の立て看板の設置（移動式）	110,000	需用費
				看板制作料：5.5万円*2枚
	フットパス交流推進に係る研修（旅費）（報償費）	フットパス交流会を地域ぐるみで継続的に運営するにあたり、ノウハウを習得する。（講師：北大　小林先生）	7,000	旅費
				旅　　費：札幌往復 7,000円
			33,000	報償費
				講演料：1.1万円/時＊3時間
	PRポスター・チラシ作成（需用費）	フットパス交流会・落花生まつりの開催案内ポスター、チラシを作成し、周知を図る。(直売所のＰＲもあわせて行う)	160,000	需用費
				ﾎﾟｽﾀｰ50部*2 ﾁﾗｼ1,000部*2
				ﾎﾟｽﾀｰ@800円*100部
				ﾁﾗｼ@40円*2,000部
		小　計	310,000	
		科目別	580,000	需用費
			7,000	旅費
			93,000	報償費
				役務費
			120,000	使用料
合計			800,000	

別記様式第４号

活 動 計 画

団体名	豊正FAM協議会	市町村名	岩見沢市	地区名	岩見沢市北村豊正
めざす姿	～　人が訪れる地域づくりを通して、老後も元気に暮らす　～ 近年、高齢化に伴う離農や店舗の撤退などで過疎化が進行しつつある中、生産者組織「北の大地マルシェ」（空き店舗を活用した直売事業と落花生の加工事業を推進）を設立し、他地域から多くの人に訪れてもらえることで地域の活性化を図る。 また、「北の大地マルシェ」事業と並行し、従前から実施している交流事業（フットパスイベントや落花生まつり）の一層の充実を図り、更なる北村豊正ファンを獲得し、他地域や都市との交流、異業種交流、福祉団体との連携など複合的な活動を進めていく。				

活動の方向	NO	活動の内容	目標（数値・定性）	解決すべき課題
	①	北の大地マルシェ直売事業 ・6月上旬から11月上旬まで、JA空き店舗を借用した直売所運営 ・地域住民が集う場所としてのカフェの開業	＜初年度＞ 来場者　期間中900人(予定) 売上　　年間750千円(予定) ＜29以降＞ 前年度比10％増	・効率的な直売所運営が図れるよう経営ノウハウの習得 ・都市部に対するPRの実施等、効果的な販促活動 ・構成員の積極的な参画と出荷者の増加による品揃えの確保 ・カフェメニューの開発
	②	北の大地マルシェ加工事業 ・「塩ゆで落花生」加工販売 ・地場農産物を活かした加工品の研究	＜塩ゆで落花生加工販売＞ 加工品の品質の均一化 ＜加工品の研究＞ 加工品の開発　1品	＜塩ゆで落花生加工販売＞ ・加工技術の習得、向上と委託加工受入体制の確立 ＜加工品の研究＞ ・加工技術の習得、向上 ・加工品開発に係るパッケージデザイン等の情報収集
	③	交流事業　～　フットパス交流会・落花生まつり ・7月上旬にフットパス交流会、10月上旬に落花生まつりのイベントを開催し、地場農産物の料理を楽しみながら生産者と消費者や異業種と交流や福祉団体との連携を図る。	運営方法等の具体的な取組手法の定着	・参加対象を広げたいが参加者の参加しやすい体制が整備されていない。(バスの確保等) ・継続した活動につなげたい。
	④			
	⑤			

3年間の活動プロセス	活動事項	関連NO	平成28年度 内容	予算額	年度目標	平成29年度 内容	予算額	年度目標	平成30年度 内容	予算額	年度目標	最終目標	適用事業
	北の大地マルシェ直売事業	① ②	先進地へのバス視察研修	120	1回/年開催	先進地へのバス視察研修	120	1回/年開催	先進地へのバス視察研修	120	1回/年開催	地域の直売所として活動の安定を図る	
		①	販売促進に係る資材（エプロン・のぼり等）費	160	エプロン15枚・のぼり10本・横幕1枚	マルシェPRポスター・チラシ作成	120	100部作成 1,000部作成	マルシェPRポスター・チラシ作成	120	100部作成 1,000部作成		
		①	マルシェPRポスター・チラシ作成	120	100部作成 1,000部作成								
	北の大地マルシェ加工事業	① ②	加工販売に係るマーケティング研修	20	1回/年開催	加工販売に係るマーケティング研修	50	1回/年開催	加工販売に係るマーケティング研修	50	1回/年開催	地場農産物のPRにつなげる	
		①②	加工技術向上に係る研修	70	1回/年開催	加工技術向上に係る研修	93	1回/年開催	加工技術向上に係る研修	93	1回/年開催		
		① ②③							地場農産物レシピ集作成	140	500部作成		
	交流事業	③	コースの整備	110	案内看板の設置							地域のイベントとして定着させる	
		③	フットパス交流推進に係る研修	40	1回/年開催	地域づくりに係る研修	40	1回/年開催	地域づくりに係る研修	40	1回/年開催		
		③	フットパス・落花生まつりPRポスター・チラシ作成	160	100部作成 2,000部作成	フットパス・落花生まつりPRポスター・チラシ作成	160	100部作成 2,000部作成	フットパス・落花生まつりPRポスター・チラシ作成	160	100部作成 2,000部作成		

関係者等	
岩見沢市農政部農業基盤整備課	
JAいわみざわ農業振興部門	
宮島沼水鳥・湿地センター	
北海土地改良区水土里ネット推進室	
空知農業改良普及センター	

別記様式第３号

活動の評価・検証結果

<table>
<tr><th>項　目</th><th colspan="2">内　容</th></tr>
<tr><td>事業実施年度</td><td colspan="2">平成27年度</td></tr>
<tr><td>総合振興局等名</td><td colspan="2">オホーツク総合振興局</td></tr>
<tr><td>活動地区名</td><td colspan="2">湧別地区</td></tr>
<tr><td>活動団体名</td><td colspan="2">JAゆうべつ町女性部マルシェ部会</td></tr>
<tr><td rowspan="2">活動成果における当初・変更計画との比較</td><td>当　初・~~変　更~~</td><td>実　績</td></tr>
<tr><td>① PR事業（パンフ作成）
② 研修事業（先進地視察）
③ 食育事業（町内全小学校）
④ 新商品開発事業（流氷トウモロコシはね品使用）</td><td>① デザイン等の決定が遅くなったため本予算は執行しなかった。独自の予算による執行により、牛乳うどんをくるむ掛け紙を制作した。
② 興部町食を考える協議会への視察を行った
③ 対象を実施可能な範囲に絞り、芭露小学校でのうどんづくり体験、老人ホーム2か所における活動に限定した。
④ 専門家（食品加工技術センター）の意見を受けながら、牛乳うどんの成分分析業務に予算を集中化した。流氷とうもろこしのはね品を活用した新メニューの開発は翌年度以降、本格的に実施する。</td></tr>
<tr><td>活動の課題
（成果）</td><td colspan="2">活動における大きな転換点となったのは、②研修事業における興部町食を考える協議会への訪問（10/27）であった。代表の大黒敦子氏から、
〇牛乳でうどんを練るという切り口はいいと思う。
〇できることから、少しずつやればいいのでは？
〇結局は（マルシェの方々が）「地域をどうしたいのか」だよ。
→励みにもなり、また自分たちの活動を考えるきっかけとなりました。

次の転機は、食品加工技術センターからの意見を、マルシェ部会会員が直接聞くことができたことであった。
〇牛乳に含まれる脂肪分がどのように状態変化するか冷静に調べる必要。それがないと責任もった賞味期限の設定ができない。
〇6次化ブームでいろいろな商品開発の委託を（食加技は）受けるが、多くは丸投げ。それではいいものが出来ない。主体はあなたたち（マルシェ部会）であり、食加技はそのパートナーです。
〇うどんという切り口はおもしろい。湧別産のいろいろなものとセット販売し、レシピを入れておけば、ヒットするのではないか。
→マルシェ部会のよきパートナーが見つかった。

こうした刺激を受けながら、具体な活動を検討した。食育は「できることから」というコンセプトで、芭露小学校に限定し、「うどん作り体験」を総合学習にとりいれることで、学校とマルシェの双方の目的であった「食育」の実現に至った。この中では、うどん作りに至った背景や生産過程などを紹介した資料を学校側で作成していただき、その資料は後の「老人ホームでの食育」においても活用したところであった。
うどんづくり体験で提供した「焼うどん」の醤油を湧別産カキしょうゆを使用したところ、大変美味であり、ためしに生醤油で食したところこれも美味であるという発見をしたことも収穫でした。「おかわり」した子供がたくさんいたこともうれしい限りでした。
老人ホームでは、芭露小学校での活動を冒頭に紹介することで、笑顔で話を聞いてもらったことが印象的でした。

本年度は、それまで内向きだったマルシェ部会が、「外向き」となって、外の組織と</td></tr>
</table>

	のかかわりを持つようになったことが、最大の成果であると考えます。また「商品の販売」に関しては、札幌など外部での販路拡大志向ではなく、今は、地域内でのコンセンサス形成を重視した取組を強化していこうと考えています。 また課題は、決定事項を遅く、事務処理の適期を逸していたため、一部予算を活用できなかった取組があった点です。
次年度の活動方向（活動の改善点等）	(PR事業) ・共通デザインは完成した。このデザインを活用し、のぼり、法被を作成し、イベント等で使用する。 ・機能性の表示に関しては、食加技における成果ができ次第検討する。 (先進地視察) ・農業の6次化の優等生である十勝管内中札内村への視察により、次の商品開発のヒントに役立てる。 (食育事業) ・教育機関や福祉機関と調整し、可能な範囲で食育活動を展開する。 (新商品開発) ・牛乳うどんの成分分析は、H27は生めんのみが対象であったことから、H28は乾麺において実施する。 ・地域の既存の特産物とのコラボした牛乳うどんの食し方を提案するために、商品開発を行う。またはそのための情報交換を行う。 ※情報交換：中札内村、食加技等 ※想定する食材：流氷トウモロコシ、カキしょうゆ
活動状況写真（別添可）	(容量が大きいため別紙添付)
総合振興局等から見た活動地区及び活動団体の状況	この一年で、JAの協力もあったところではあるが、組織としての活動を自ら主体的に行えるようになった点が評価に値すると考えます。昨年度は組織としての非常に貧弱に見えました。しかしリーダーの思いは的確であり説得力があり、「何か一歩踏み出せるきっかけ」が重要であると考え、支援してきたところです。 何をどうすればいいのかが分からなかった昨年度とは異なり、自分たちの言葉で食の大切さを伝える喜びを味わったことで、活動がさらに充実するものとなるのではないかと期待しています。 振興局として活動をしていて1点、振興局が独自に定めたルールによる予算の執行を前提としていることで、思い通りの活動を本予算にて実施できなかった点、活動組織にはお詫びしなければなりません。

別記様式第４号

活 動 計 画

団体名	JA湧別町女性部マルシェ部会	市町村名	湧別町	地区名	湧別地区
めざす姿	活動を通じて開発した商品が、長く愛される「地域ブランド」となるよう、食を通じ地域の活性化を図る				

活動の方向	NO	活動の内容	目標（数値・定性）	解決すべき課題
	1	ＰＲ事業	地域住民	地域（湧別町）内で、「食」に対する部会の姿勢が認識されていないた加工品の開発に対するマルシェ部会の取組が周知されていない。そこで、パンフ等を作成し、部会の取組の周知を図る。
	2	研修事業	部会員等	構成員は全員農業者であり、地域活動の展開についてノウハウがない。そのため今後の地域活動に活かせるよう、先進地事例を知る。
	3	食育事業	小中学校、老人ホーム等	湧別町では牛乳をはじめとする農産物や水産物が産出されるが、その「加工」への取組はなされていなかった。そこで、地場産農産物の加工品を「食する」ことを通じ、部会が商品開発を進めたきっかけとなった「食の大切さへの認識」を伝える。
	4	商品開発	部会員等	部会の活動を通じて開発された商品が「安全」で「機能的」かどうかの数値的根拠がないため、これらを分析に、適切な表示を行い消費者への情報提供を行う。また「流氷とうもろこし」のはね品が多いという課題があり、これを活用した新たな商品を開発する

※予算額単位は「万円」

３年間の活動プロセス	活動事項	関連NO	平成２７年度 内容	予算額	年度目標	平成２８年度 内容	予算額	年度目標	平成２９年度 内容	予算額	年度目標	最終目標	適用事業
	ＰＲ事業	1	パンフ作成	72.5	500枚	のぼり等作成	50	20枚	レシピ大会開催	90	1回	地場産農産物や開発した商品をＰＲにより、地域ブランドとしての地位を築く	中山間ふるさと・水と土保全対策事業（地域活動支援事業）
	研修事業	2	先進地視察	120	1回（興部）	先進地視察	120	1回（中札内村）				今後の方策を検討する	
	食育事業	3	食材提供及び食育事業等	137.5	1回（小中学校等1000人）	食材提供及び食育事業等	82.5	1回（老人ホーム）				取組の内容を理解することで、地場産商品に対する地域住民の意識を醸成する	
	商品開発					加工工場視察	100	1回	加工工場視察	100	１回	はね品を用いた新たな商品を開発する。また取組により誕生した商品の品質情報を把握し、安全で安心な地域ブランドとなるよう商品を育てる。	
		4	食品成分検査	150	対象：牛乳練りうどん	食品成分検査	117.5	対象：コーン関連商品	食品成分検査	160	対象：水産物関連商品		

関係者等	
マルシェ部会	
ＪＡ湧別町女性部	
湧別町農業協同組合	
湧別町	
湧別町教育委員会	

平成２８年度研修事業

１　第１回幹事会

（1）日　時　平成２８年5月２６日（木）　１３：３０～
（2）場　所　道庁本庁舎７階農村振興局会議室
（3）出席者　１４名（うち幹事１１名）
（4）内　容　里づくり１４号（２９年２月)、ブロック別ミーティング、指導員会役員の体制について

２　情報誌「里づくり１３号」（7月２１日発行）

（1）部　数　１０００部
（2）内　容
　①　リレーインタビュー　美唄市なかむらえぷろん倶楽部
　②　里づくりアドバイザーレポート　岩見沢市　高柳広幹指導員
　③　実践地域づくり　旭川市　東鷹栖食品加工販売協議会

３　第１回指導員会

（1）日　時　平成２８年9月２９日　１３：３０～
（2）場　所　札幌全日空ホテル　３F 祥雲の間
（3）出　席　２８名（うち指導員２７名）
（4）内　容　北海道ふるさと・水と土指導員会規約の改正

４　第２回幹事会

（1）日　時　平成２８年9月２９日　１３：４５～
（2）場　所　札幌全日空ホテル　３F 祥雲の間
（3）出　席　１２名（うち幹事１１名）
（4）内　容　副会長２名の互選

５　地域づくり研修会

（1）日　時　平成２８年9月２９日　１４：００～
（2）場　所　札幌全日空ホテル　３F 祥雲の間
（3）出　席　５９名（うち指導員２７名）
（4）内　容
　①　基調講演　中井景観デザイン研究室代表　中井和子氏
　②　活動報告　北竜町ひまわり観光協会事務局　南波　肇氏
　③　北海道中山間ふるさと・水と土保全対策委員会から　山本忠男座長

６　現地研修

（1）日　程　平成２８年１０月６日（木）～7日（金）
（2）場　所　旭川市、名寄市、当麻町、剣淵町
（3）出　席　２７名（うち指導員２０名）
（4）内　容
　田んぼの学校、くるみなの木遊館（当麻町)、上野ファーム（旭川市）
　けんぶち絵本の館（剣淵町)、もち米の里なよろ（名寄市)、意見交換会

7　ブロック別ミーティング

（1）道東ブロック

①　日　程　６月１６日（木）～１７日（金）

②　場　所　帯広経済ビルセンター（帯広市）、浦幌町

③　出　席　２１名（うち指導員１０名）

④　内　容

ア　講　　演　ハーブンマージュ代表　服部佐知子氏

イ　活動報告　服部政人指導員（鶴居村）、高橋徹指導員（浦幌町）

ウ　グループ討議

エ　現地研修　マイルビー株式会社、高橋農園、道の駅うらほろ

（2）道北ブロック

①　日　程　８月１日（月）～２日（火）

②　場　所　南富良野町情報プラザ

③　出　席　１９名（うち指導員８名）

④　内　容

ア　特別講話　南富良野まちづくり観光協会　副理事長　福嶋孝志氏
　　南富良野町地域おこし協力隊　太田達也氏
　　南富良野町森林組合　参事　池部英明氏

イ　グループ討議

ウ　現地研修　木質バイオマス活用施設

（3）道央ブロック

①　日　程　８月２４日（水）～２５日（木）

②　場　所　喜茂別町農村環境改善センター、鈴川基幹集落センター

③　出　席　２０名（うち指導員６名）

④　内　容

ア　講　　演　喜茂別町副町長　内村俊二氏

イ　活動報告　元喜茂別町地域おこし協力隊　岩井真氏、山下純氏

ウ　グループ討議

エ　現地研修　ログハウス　講演　宮本弘夫氏

オ　鈴川地区住民との意見交換　岩部隆氏、菊地光雄氏、菅原優子氏

（4）道南ブロック

①　日　程　１１月１０日（木）～１１日（金）

②　場　所　八雲町活性化施設ファームメイド遊楽部１号館、八雲町公民館

③　出　席　２２名（うち指導員８名）

④　内　容

ア　活動報告　小林石男指導員（八雲町）

イ　事例紹介　フロムネイチャーファーム代表　梶田とき子氏
　　熊木彫り講師　千代昇氏
　　服部醸造株式会社　専務　服部由美子氏

ウ　意見交換会

8　ＷＥＢ版「里づくり」の発行

（1）発　行　毎月、随時

（2）内　容　委員会、研修事業、指導員の活動状況等について

〔今後の予定〕

９　第２回幹事会

（１）日　程　１月２５日（水）１０：００～
（２）場　所　道庁本庁舎７階農政部中会議室
（３）内　容　地域づくり研修会、現地研修、里づくり１５号の企画等

１０　第２回指導員会

（１）日　程　１月２５日（水）１３：３０～
（２）場　所　かでる２・７　１０６０会議室
（３）内　容　活動紹介　外山陽一指導員（雨竜町）・高橋徹指導員（浦幌町）、
　　グループ討議

１１　全国研修

（１）日　程　２月１５日（水）～１６日（木）予定
（２）場　所　東京都渋谷区代々木
（３）内　容　未定

１２　情報誌「里づくり」１４号（２月下旬発行）

（１）部　数　１０００部
（２）内　容　（予定）
　①リレーインタビュー　食品加工技術センター
　②里づくりアドバイザーレポート　小西泰子指導員（岩見沢市）
　③その他　新規委嘱者紹介等

別記様式第１号

北海道中山間ふるさと・水と土保全対策事業の地域活動支援事業に係る実施要望調書

総合振興局等名	根室振興局	市町村名	根室市
活動地区名	厚床	活動団体名	酪農家集団 AB-MOBIT
市町村担当者所属･氏名		関係指導員名	

活動地区の現状及び活動団体の活動状況（実績）

根室厚床地区は、本土最東端である根室市西部に位置する地域である。国のパイロットファーム　事業により大規模な草地が造成されており、基幹産業の一つである酪農業を中心に漁業や林業などの１次産業に加え、ラムサール条約登録湿地である風連湖や春国岱、農村景観やフットパスを活かした観光業が主な産業である。

現在の地区人口は８８７人（３６９世帯）であるが、１次産業の衰退により人口は減少傾向にあり、高齢者を含む非生産年齢人口は３４１人でその比率は６２．４５％となっており、更に上昇傾向にある。

道路環境については、釧路と根室を結ぶ国道４４号線、別海町方面へ通じる国道２４３号線の国道２路線が地区内にあり、鉄道環境についてはＪＲ根室本線を有し、バス環境については、根室市内、釧路市、中標津町へのバス路線も充実していることから交通拠点となっている。また、これらに加え、首都圏からは中標津空港を経由して、車で１時間圏内に存在していることからも、比較的都市間アクセスが便利な地区である。

そのなかで酪農家集団 AB-MOBIT は2001年農協青年部の雄志5名が地域交流人口の増加と消費者の酪農産業への理解を深めてもらうことを目的として結成され、道内でのフットパス先駆けとして厚床地区に3コース約30㎞の歩く道を整備。このモデルは道内に広く影響を与えた。また、築拓キョンプ場、厚床家畜動物園、食品加工体験館、ファームレストランとフットパスと連動した交流活動を行っており、年間約3万人が当地を訪れている。

活動地区及び活動団体の活動における課題

①産業振興の面では農商工連携が遅れている。
②地域間交流の促進の面では、町の玄関口としての地の利が活かされていない。
③地域交通の面では、交通拠点のメリットが活かされていない。
④教育・文化の振興面では、文化に触れる機会が減少している。
⑤集落の整備面では、災害時における孤立が懸念される。
⑥生産年齢人口が少ないため地域おこし活動の担い手がいない。等が課題として挙げられる。

厚床地区は、根室市の玄関口という非常に重要な役割を担う地区であり、厚床地区の活性化は根室市全体の地域経済の活性化につながるものである。

また、厚床地区には、風蓮湖、春国岱、農村景観、厚床獅子舞、ラムサール条約登録湿地、大手乳業会社、厚床・別当賀フットパス等の魅力的な地域資源を有しているが、その潜在的なポテンシャルを生かし切れていないのが実情である。

酪農家集団 AB-MOBIT は現在、所属農協はもとより、公共交通機関、地元乳業、商店とは連携があるもの、地元町内会とは直接連携はなく、地域住民を巻き込んだ活動には至っていない。